

【農林水産業】誰もが楽しく、やりたくなる



2030
年の滋賀

スマート農業などデジタル技術を活用して、誰もが簡単に取り組み、生産性が高く、消費者との繋がりのもと安定した販売ができ、多様な人材が集まる農林水産業が実現している

2024
年度末
までの
取組

- 【スマート林業の推進】適切な伐採と更新の着実な実施や持続的な森林保全と管理に有用な状況把握のため、高精度の地形解析や資源解析等を構築する。また、ICT活用により、業務の効率化とコスト縮減を図っていく。
- 【スマート農業の推進】ICTの活用や機械の自動化、高度環境制御技術などの普及、水管理の高度化などの生産基盤整備を一体的に推進することで、スマート農業の実装が着実に進み始めている。
- 【スマート水産業の担い手確保】データ化された漁労行為の活用により、短時間・最小労力で漁獲量を確保できるようにすることで漁家経営を安定させるとともに、新規就業者の早期技術習得を支援し、魅力ある持続可能な琵琶湖漁業を実現する。
- 【スマート水産業の推進】資源管理型漁業の推進に向け、漁業現場の詳細な漁獲情報を電子データとして収集し、水産資源の資源状況を迅速に評価する体制の構築を図る。

県の主な
取組

- GISデータや航空レーザ計測・解析成果のクラウド上での活用による森林の管理等の効率化の検討
- 直売所が実施するデータ分析に基づく生産・販売戦略の策定や戦略に基づく取組への支援の検討
- 環境に配慮した農業生産が実践できるスマート農業機械の導入経費に対する支援、スマート農業技術の実装化に向けた普及指導員による技術支援および普及指導方法のDX、スマート農業を担う人材の確保・育成の検討
- スマート農業技術の実装で活用できる栽培技術の開発に向けた試験研究の検討
- 漁場利用ルールの見える化の推進の検討
- 既存漁法の効率化や新規漁法の開発・導入など、漁業の効率化の検討

6. めざすべき姿と、3年間で取り組む事項



【農林水産業】誰もが楽しく、やりたくなる



県の主な取組

- 農業用ダムにおける降雨予測データを利用した流入予測システムの構築の検討
- ICT 技術を利用した自動給水栓の整備による水管理の効率化の検討

誰もが楽しく、やりたくなる

農業分野



【商工業】新たなサービスや製品が生まれている



2030
年の滋賀

中小企業等においてもデジタル技術の進展やその利活用が成長の機会として捉えられ、デジタル化の取組が加速化するだけでなく、デジタル技術を活用して、商品・サービスの高付加価値化や生産性向上が図られ、また、高い競争力を有するビジネスモデルを構築する企業が増加している

2024
年度末
までの
取組

- **【中小企業等のデジタルシフト】** 県内中小企業に対しデジタル技術の導入を促進することで、業務効率化やコスト削減などの生産性向上だけでなく、新たな製品・サービスの創造・開発につなげる。
- **【デジタル技術を活用したビジネス変革】** 生産性の向上や人材確保、BCPなど様々な効果を持つテレワーク(時間や場所の制約を受けない働き方)の普及を促し、企業活動や働き方の変革を推進する。
- **【デジタルによる課題解決】** IoT、AI等をはじめとする最新のデジタル技術を社会実装することで、社会的課題をビジネスで解決する。
 - 情報技術をベースに学ぶ県立高等専門学校の設置に向けた準備
 - 高等技術専門校におけるデジタル技術に対応できる人材育成の推進
 - クラウドサービスを活用した事業者支援施策の周知の推進
 - 近未来技術等の社会実装の推進
 - 県内商工会、商工会議所職員の DX 推進支援スキルを上げるための研修や実習の実施検討
 - 商店街振興組合連合会が行う商店街のキャッシュレス化やECビジネスへの進出にかかる研修事業に必要な経費に対する支援
 - 企業経営者層のDXによるビジネスモデル企画能力向上およびDX人材の育成
 - 製造現場への ICT・AI・IoT 導入による省力化、高度化の促進
 - 大学の垣根を越えた In4.0 関連技術開発の促進

県の主な
取組

6. めざすべき姿と、3年間で取り組む事項



【建設業】生産性・安全性向上や働き方改革の実現



2030
年の滋賀

ICT 技術等を活用した i-Construction の推進等により、建設現場の生産性・安全性向上や働き方改革が図られ、魅力的な産業として担い手の育成・確保が進んでいる

2024
年度末
までの
取組

- 【i-Construction の促進】建設業における手続等の電子化を推進するとともに、建設現場における生産性の向上や、建設技能者の処遇改善を図る取組を推進するなど、安全で魅力ある建設現場(新3K:給与が良い、休暇がとれる、希望がもてる)の実現をめざす。

県の主な
取組

- 建設業許可・経営事項審査申請手続の電子化、県・市町の共同による工事等入札参加資格申請手続の電子化の検討
- 建設現場における ICT 施工と遠隔臨場(リアルタイム映像と音声による監督職員の立会)の推進
- 建設キャリアアップシステム(CCUS)の普及・活用の推進

生産性・安全性向上や働き方改革の実現

建設業分野

- 建設業許可・経営事項審査申請手続きの電子化
- 県・市町共同による工事等入札参加資格申請の電子化
- 建築基準法関連手続きの電子化
- 建設現場におけるICT施工と遠隔臨場の推進
- BIM活用（設計・施工・建築物のメンテナンス）の推進
- 建設キャリアアップシステム（CCUS）の普及・活用の推進



図 ICT施工



図 BIMの活用

DXでこう変わる

- ◆ 生産性向上による働き方改革の進展
- ◆ デジタル化・スマート化による公共交通の利便性向上や社会インフラ管理高度化、建設現場の安全性向上

安全で魅力のある建設場が実現され、建設業の担い手が確保されています

旧	3K	新	3K
	きつい		給与
	汚い		休暇
	危険		希望

建設業従事者などの働き方改革が進んでいます



【エネルギー・環境】気候変動への対応と環境負荷の低減



2030 年の滋賀

エネルギーの需給をICTで可視化・最適化することにより、省エネルギー・節電の推進、再生可能エネルギーの導入を促進している

デジタル技術等も活用し、環境を「守る」取組により、地域資源の価値や魅力高めるとともに、それらを「活かす」ことで、経済・社会活動の活性化を図り、さらなる「守る」取組へとつながる循環を、持続的に実現している

2024 年度末 までの 取組

- 【環境に配慮した経済の持続可能性】環境を「守る」取組により、地域資源の価値や魅力高めるとともに、それらを「活かす」ことで、経済・社会活動の活性化を図り、さらなる「守る」取組へとつながる循環を、デジタル技術等も活用しつつ、持続的に実現する。
- 【デジタルによる環境負荷低減】これまでの「いかに環境負荷を抑制するか」という視点だけでなく、人間が「いかに適切に環境に関わるか」という、より広い視点のもと、デジタル技術等も活用しつつ、CO2ネットゼロ社会を含む、環境と経済・社会活動の持続可能性を同時に実現する社会を創出する。

県の主な 取組

- 家庭や事業所等における、HEMSやBEMSをはじめとした省エネ・再エネ等設備の導入に対する支援
- GISを活用した生物多様性情報のデジタル化
- GISを活用した自然公園等の管理の効率化の検討